

全国財務局

管内経済情勢報告概要

令和4年7月27日

財 務 省

目 次

I 地域経済の概況

地域経済の概況	2
全財務局管内経済情勢報告	3
（参考）財務局及び財務事務所において判断した各地域の経済情勢.....	4

II 各財務局からの報告

北海道財務局	7
東北財務局	11
関東財務局	15
北陸財務局	19
東海財務局	23
近畿財務局	27
中国財務局	31
四国財務局	35
九州財務局	39
福岡財務支局	43
沖縄総合事務局	47

I 地域経済の概況

地域経済の概況

○令和4年4月判断と比べた4年7月判断の地域経済の動向

「総括判断」は、6地域で「上方修正」、5地域で「据え置き」。

○令和4年7月判断の全局総括判断

「供給面での制約や原材料価格高騰の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直している」

【財務局等の管轄区域】

財務局等	指標中略称	管轄都道府県	本局所在地
北海道財務局	北海道	北海道	札幌市
東北財務局	東北	宮城県、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県	仙台市
関東財務局	関東	埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県	さいたま市
北陸財務局	北陸	石川県、富山県、福井県	金沢市
東海財務局	東海	愛知県、岐阜県、静岡県、三重県	名古屋市
近畿財務局	近畿	大阪府、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県	大阪市
中国財務局	中国	広島県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県	広島市
四国財務局	四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	高松市
九州財務局	九州	熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	熊本市
福岡財務支局	福岡	福岡県、佐賀県、長崎県	福岡市
沖縄総合事務局財務部	沖縄	沖縄県	那覇市

全財務局 管内経済情勢報告

	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回との 基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約、原材料価格高騰の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約や原材料価格高騰の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
財務局名	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回との 基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	新型コロナウイルス感染症や供給面での制約、原材料価格上昇の影響がみられるなか、二進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	↔	個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
東北	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	↔	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが通信機器向けなどで好調となっているほか、生産用機械が海外の設備投資需要を背景に高水準となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
関東	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	→	個人消費は、スーパー販売額、家電販売額などが前年を下回っている一方で、百貨店販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、生産用機械などが増加しているものの、電気機械が減少しているなど、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
北陸	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあることから、全体では持ち直しつつある。生産活動は、生産用機械が拡大に向けた動きがみられるものの、電子部品・デバイス及び化学が持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
東海	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、不安定ながらも緩やかに回復している	緩やかに回復している	→	個人消費は、一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
近畿	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、外出機会の増加に伴い、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響があり、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
中国	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
四国	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある	↔	個人消費は、スーパーに需要がみられる中で、コンビニエンスストア、百貨店、観光等が持ち直しつつあることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、食料品や繊維・土石が持ち直しつつあるものの、電気機械が足踏みの状況にあることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。
九州	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↔	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費に持ち直しの動きがみられることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福岡	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↔	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
沖縄	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポに一服感がみられる	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	↔	個人消費は、外出機会の増加などから、消費者マインドの回復傾向がみられるものの、積ばいの状況にある。観光は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

(注) ※ 4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断。
※ 下線部が基調判断。

(参考) 財務局及び財務事務所において判断した各地域の経済情勢

	総括判断(4年7月判断)	前回の比較	総括判断の要点
北海道財務局	緩やかに持ち直しつつある		個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
東北財務局	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが通信機器向けなどで好調となっているほか、生産用機械が海外の設備投資需要を背景に高水準となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
青森	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手	持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
宮城	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
秋田	緩やかに持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
山形	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
福島	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。
関東財務局	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、スーパー販売額、家電販売額などが前年を下回っている一方で、百貨店販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、生産用機械などが増加しているものの、電気機械が減少しているなど、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
茨城	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		一部に供給面での制約の影響がみられるものの、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動及び雇用情勢は持ち直している。
栃木	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある		個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
埼玉	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
千葉	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
東京	緩やかに持ち直している		個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
神奈川	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
新潟	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨	緩やかに持ち直している		個人消費、生産活動及び雇用情勢は、いずれも緩やかに持ち直している。
長野	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある。
北陸財務局	緩やかに持ち直している		個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあることなどから、全体では持ち直しつつある。生産活動は、生産用機械が拡大に向けた動きに一服感がみられるものの、電子部品・デバイス及び化学が持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けたテンポが緩やかになっている。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
石川	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福井	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は持ち直している。また、雇用情勢は、持ち直している。
東海財務局	緩やかに回復している		個人消費は、一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
岐阜	供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている		個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
静岡	持ち直している		個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、一部で供給面での制約等の影響がみられるものの、全体では持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
愛知	緩やかに回復している		個人消費は、一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
三重	供給面での制約等の影響が残るものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、自動車関連で持ち直しに向けた動きがみられることから、全体では持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けた動きがみられる。

(注) 4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから下の状況までを含めた期間で判断。

	総括判断（4年7月判断）	前回との比較	総括判断の要点
近畿財務局	持ち直している	➡	個人消費は、外出機会の増加に伴い、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響があり、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
➤ 滋賀	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 京都	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 大阪	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
➤ 兵庫	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
➤ 奈良	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 和歌山	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
中国財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 鳥取	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しつつある。生産活動は供給面での制約の影響がみられるなか、横ばいの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➤ 島根	感染症や供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。	➡	個人消費は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は一部に弱い動きがみられ、足踏みの状況にある。雇用情勢は感染症の影響が残るなか、持ち直している。
➤ 岡山	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
➤ 広島	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 山口	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
四国財務局	持ち直しつつある	➡	個人消費は、スーパーに底堅さがみられる中で、コンビニエンスストア、百貨店、観光等が持ち直しつつあることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、食料品や農業・土石が持ち直しつつあるものの、電気機械が足踏みの状況にあることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 徳島	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 香川	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 愛媛	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 高知	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
九州財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費に持ち直しの動きがみられることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 熊本	持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費に持ち直しの動きがみられることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスが高水準で推移していることから、回復している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➤ 大分	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、感染症の落ち着いたに伴う人流の増加により百貨店・スーパー販売や観光関連などにおいて緩やかに持ち直している。生産活動は、輸送機械などに弱さがみられるものの、化学・石油製品などにおいて緩やかに持ち直している。雇用情勢は、感染症の影響を受けていた業種などで新規求人数が増加し、緩やかに持ち直している。
➤ 宮崎	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、行動制限の緩和などにより百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に裏がみられることから緩やかに持ち直している。生産活動は、食料品製造業などの一部に弱さがみられるものの、化学工業を中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業を含む幅広い業種において持ち直しつつある。
➤ 鹿児島	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐなかで、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連を中心に緩やかに持ち直している。生産活動は、食料品工業などの一部に弱さがみられるものの、電子部品・デバイス工業を中心に緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福岡財務支局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 福岡	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➤ 佐賀	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一部に供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
➤ 長崎	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
沖縄総合事務局	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、外出機会の増加などから、消費者マインドの回復傾向がみられるものの、横ばいの状況にある。観光は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。


(注) 4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断。

Ⅱ 各財務局からの報告

北海道財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症や供給面での制約、原材料価格上昇の影響がみられるなか、一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	




（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	感染症の影響が続くなか、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	緩やかに持ち直しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	感染症の影響が続くなか、持ち直しの兆しがみられる	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	

設備投資	3年度は減少見込み	4年度は増加見込み	
観光	感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」超となっている	
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	
公共事業	前年を上回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症の影響や原材料価格の上昇、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

スーパー販売は、衣料品の回復や総菜の需要増加により、引き続き堅調に推移している。コンビニエンスストア販売は、弁当や飲料水の売れ行きが回復するなど、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、受注状況は好調であるものの、供給面の制約により足踏みの状況にある。ドラッグストア販売は、化粧品が回復傾向にあるなど、前年を上回っている。家電販売は、エアコン需要の高まりがみられており、持ち直しの動きがみられる。百貨店販売は、衣料品に動きがみられるなど、持ち直しつつある。ホームセンター販売は、DIY用品にみられた巣ごもり需要が落ち着いていることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 生鮮食品が値上げされるなか、総菜が消費者にとって割安となっており、売上が伸びている。(スーパー)
- 行動制約が緩和されたことにより、人の動きにあわせて売れていく弁当や飲料水の売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 受注が好調に推移する一方で、生産が追い付いていないため、受注残が過去最高に積みあがっている。(乗用車販売店)
- 外出する機会が増えたことにより、化粧品の売れ行きが伸び始めている。(ドラッグストア)
- 北海道のエアコンの普及率は低いいため、新規購入する消費者が多く、除湿機能付きや寒冷地対応などの高性能・高単価な商品が売れる傾向にある。(家電量販店)
- 外出する機会が増えたことにより、衣料品に動きがみられ、この2年間春物衣料品を購入していなかった方の購入もあった。(百貨店)
- ゴールデンウィーク以降来店客数が増加しており、コロナ前の売上を上回る良い流れとなっている。(飲食サービス業)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産活動は、「輸送機械」などが増加しているものの、「金属製品」や「鉄鋼業」などが減少しており、全体では足踏みの状況にある。

- 4月は生産量を伸ばしたが、5月は上海ロックダウンの影響により生産を抑制した。足下ではその影響は解消したものの、半導体不足の影響は依然として継続しており、生産は引き続き抑制的である。(輸送機械)
- 足下、道内工事向けの需要に動きがみられてきたものの、当期の生産は、需要の乏しかった前年の流れを受け、低水準となっている。なお、価格転嫁が追いつかない状況が続くなか、一部原材料の価格が為替の影響やロシア産シェアが大きくなることにより、さらに上昇している。(鉄鋼業)
- 感染症の影響緩和により、来客数が増加し、在庫が不足気味になるほど商品が売れたため、生産稼働率は上がっている。ただし、円安の影響によるコストアップなど課題がある。(食料品)

■ 雇用情勢 「感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇しており、雇用情勢は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

- 新規求人数は、感染症による悪影響から回復していない業種が低水準であるものの、人手不足の業種が高水準にあり、業種によって動向にばらつきが見られる。全体としては増加傾向にあり、コロナ禍以前の水準になっていると判断している。(公的機関)
- 月間有効求職者数は、公的支援を受けた者による求職活動が長期化しており、コロナ禍前と比較すると高止まりしている。また、5月は感染症の落ち着きにより、求職活動を開始する動きがみられる。(公的機関)
- 派遣会社経由で人員の確保が可能であるが、直接募集をしても応募が無く、人手不足の解消に至らない。コスト高になる派遣会社や業務請負契約業者に頼っているため、不足気味と判断している。(窯業・土石製品製造業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 需要が旺盛な商品の販売拡大を目的として、生産基盤の強化などの投資を行う。(食料品)
- 再開発プロジェクトにおける大型投資をするため前年を上回っている。(電気・ガス・水道業)

■ **観光** 「感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

- 観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、来道客数は前年を上回っており、緩やかに持ち直しつつある。

- GW以降、間違いなく旅行需要は伸びている。6月の個人販売額は、コロナ前の7割半ばの水準まで戻す見込みである。(旅行業)
- 外国人旅行者は、6月の段階では10名以下の団体が入る程度で、全体の宿泊に対する影響はまだ小さい。7月も直接の影響はないものの、今後に向けた商談を行っており、徐々に外国人客も増えてくると予想している。(宿泊業)
- 修学旅行は堅調であり、個人客及びツアーも上向き傾向にあるため、繁忙期の夏季に向けて順調な滑り出しだと感じている。(宿泊業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(4年4-6月期)でみると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。

なお、先行きは、4年10-12月期に「下降」超へ転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第1四半期は、独立行政法人等が前年を上回っているものの、国、北海道、市町村が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を下回る」


■ **企業倒産** 「前年を上回る」

■ **消費者物価** 「前年を上回る」

東北財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	




（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが通信機器向けなどで好調となっているほか、生産用機械が海外の設備投資需要を背景に高水準となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある	

設備投資	3年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が縮小	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、原材料価格の上昇等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年並みとなっている。百貨店販売は身の回り品等が好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は米飯・麺類や冷凍食品などが好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、医薬品や飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売はDIY関連や収納用品に需要の落ち着きが見られ、前年を下回っている。家電販売はテレビを中心に前年を下回っている。乗用車販売は納車に遅れが見られ、前年を下回っている。旅行は国内旅行が持ち直しつつある。このように、個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 感染症の落ち着きに伴い鮮魚や精肉などで徐々に内食需要の低下が見られる一方、調理に手間のかからない総菜の需要は高い状態で推移している。(スーパー、大企業)
- 特選ブランドの身の回り品や宝飾・時計が特に好調。このほか、外出機会の増加に伴い、手土産のお菓子、外出用の洋服など、一般的に好調となった。(百貨店)
- 人流が増え、平日の夕夜間や土日の来店客数が戻ってきており、客数の増に伴っておにぎりやサンドイッチなどが伸びている。また、売り場や品揃えの強化により、冷凍食品が好調。(コンビニエンスストア、大企業)
- 花粉の飛散が多かったことにより、花粉症対策商品が好調だったほか、簡便志向から冷凍食品などの飲食料品が堅調となっている。(ドラッグストア、大企業)
- テレビは昨年のオリンピック需要などの反動で一服感があるほか、洗濯機は上海のロックダウンの影響などにより品薄・品切れとなる商品が出ている。(家電量販店、大企業)
- 引き続き半導体不足などの影響で納車が遅れているが、受注量は変わっていない。(自動車販売、中小企業)
- ゴールデンウィーク頃から来店客、問合せ件数が増加しており、週末の来店予約は満席の状態。キャンセルもほぼない。(旅行代理店、中堅企業)
- 県民割の再開や新幹線の復旧に加え、行動制限のないゴールデンウィークだったこともあり、予約が殺到した時期や満室が続いた時期もあった。(温泉街所在の観光協会)

■ 生産活動 「持ち直している」

電子部品・デバイスは自動車向けで一部に弱い動きが見られるものの、通信機器向けなどで好調となっている。輸送機械はサプライチェーンの問題により減産の動きが続いている。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要を背景に高水準となっている。このように、生産活動は、持ち直している。

- 自動車メーカー、サプライヤーの生産調整により、生産量が減少している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 5G拡大によるデータセンター向けのほか、スマホ向け、ゲーム機向けも受注が堅調となっている。(電子部品・デバイス、中小企業)
- 完成車メーカーの生産調整が続いている影響で受注が減少しているため、操業度が落ちている。(輸送機械、中堅企業)
- 海外半導体メーカーが大規模な設備投資を実施しているため、好調となっている。(生産用機械、大企業)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいで推移しているものの、新規求人数は製造業を中心に増加している。このように、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 製造業においては、依然として幅広い業種で新規求人が出ており堅調な状態。食料品製造業においては、お土産需要が戻ってきていることで、求人の動きが出ている。(公的機関)
- 感染状況の落ち着きから在職者の求職活動に活発な動きが見られる。(公的機関)

- **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 製造業では、金属等で減少見込みとなっているものの、情報通信機械、輸送用機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、小売等で増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道、金融・保険等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。

- 製造ライン増設等の能力増強投資により増加する見込みとなっている。(情報通信機械、大企業)
- 前年度実施の大型投資の反動により減少する見込みとなっている。(電気・ガス・水道、大企業)

- **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 製造業では、食料品等で減益見込みとなっているものの、輸送用機械、非鉄金属等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、情報通信等で減益見込みとなっているものの、宿泊・飲食、運輸・郵便で赤字縮小見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- **企業の景況感** 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 現状(4年4-6月期)は「下降」超幅が縮小している。先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。
- **住宅建設** 「前年を上回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、持家が前年を下回っているものの、貸家、分譲が前年を上回っていることから、前年を上回っている。
- **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、県を中心として前年度を下回っている。
- **消費者物価** 「前年を上回っている」
- **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
- **企業倒産** 「件数、負債総額とも前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
青森県	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
宮城県	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
秋田県	新型コロナウイルス感染症の影響が依然として残るものの、緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
山形県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
福島県	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、一進一退の状況にある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

関東財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	→

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、スーパー販売額、家電販売額などが前年を下回っている一方で、百貨店販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービス業は持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、生産用機械などが増加しているものの、電気機械などが減少しているなど、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	→
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直している	↗

設備投資	3年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	→
企業収益	3年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）	4年度は減益見込みとなっている（全規模ベース）	↘
企業の景況感	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
公共事業	前年を下回っている	前年を下回っている	→
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化がみられる中で、原材料価格の上昇や供給面での制約による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響や為替の動向を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額は前年を上回っている。スーパー販売額、家電販売額、ホームセンター販売額は前年を下回っている。乗用車の新車登録届出数は、供給面での制約の影響により、普通車、小型車、軽乗用車いずれも前年を下回っている。

宿泊や飲食サービスなどは、持ち直している。

このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 感染状況の一服感により来店客数が回復傾向にあることに加え、富裕層の好調な消費の継続により客単価も上昇しており、売上金額は増加している。(百貨店、大企業)
- 巣ごもり需要が弱まったことで食料品の売上げが鈍くなっている一方、アルコール類の販売は堅調であるほか、まん延防止等重点措置の解除による外出機会の増加に伴い、ファンデーション等の化粧品の売上げが回復傾向にある。(ドラッグストア、中小企業)
- 巣ごもり需要の効果が薄まりつつある中、内食から外食へ消費者の行動変化がみられるほか、原材料価格高騰を反映した商品値上げにより買い控えがみられ、売上げは減少している。(スーパー、大企業)
- 行動制限の緩和に伴い外出機会が増加したことにより、園芸・DIYなどの需要が減少しており、売上げ・客数ともに減少している。(ホームセンター、中小企業)
- 半導体等の部品供給制約に加え、上海ロックダウンの影響による納車遅延が継続しており、売上げは減少している。(自動車販売、中堅企業)
- 政府観光支援策(県民割、ブロック割)の期間延長実施により、県内・域内旅行が好調であるほか、移動制限の解除によって、徐々に遠方への旅行も増えており客単価は上昇している。(旅行、中小企業)
- 3年ぶりに移動制限のないゴールデンウィークとなったため、5月は宿泊、宴会利用客ともに大幅に改善したほか、ゴールデンウィーク以外の時期においても県民割を利用した宿泊客が多くみられた。(宿泊、中堅企業)
- まん延防止等重点措置の解除に伴って客数が増加しているほか、客単価も上昇しており、売上げは増加している。(飲食サービス、大企業)

■ 生産活動 「持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」

生産を業種別にみると、供給面での制約の影響がみられるなか、生産用機械などが増加しているものの、電気機械が減少しているなど、全体としては、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。

- スマートフォン向け中小型パネル用装置、IT製品・テレビ向けパネル用装置の受注・生産が堅調であり、今後もこの水準を維持していくとみている。(生産用機械、大企業)
- 半導体不足の影響が継続しているほか、上海ロックダウンにより部材調達に困難となり、主力製品の生産量は大きく減少している。(電気機械、大企業)
- 半導体不足及び上海ロックダウンによる部品調達難に伴い、5月には完全稼働停止日が発生したほか、他の営業日も低い稼働率となったことから、堅調な需要に応える生産ができていない。(輸送機械、大企業)

なお、非製造業では、リース業の取扱高、情報サービス業及び広告業の売上高いずれも前年を上回っている。

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は上昇し、新規求人数は増加しているほか、完全失業率は改善しており、雇用情勢は、持ち直している。

- 経済活動の再開とともに人手不足感が強まっており、アルバイトの正社員登用など人手確保に努めている。(飲食・サービス、中小企業)
- デジタル人材が不足しており、業界内及び業界外(コンサルやシステム系)で取り合いになっている。(広告、大企業)

■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」(全規模・全産業)「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、石油製品・石炭製品などで減少見込みとなっているものの、化学、非鉄金属などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、医療、教育などで減少見込みとなっているものの、金融業、保険業などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- コロナ禍で後ろ倒ししていたプラント新設等を今年度計上することから増加を見込んでいる。(化学、大企業)
- 基幹システムの更改を予定しており増加見込み。(金融・保険、大企業)

■ 企業収益 「4年度は減益見込みとなっている」(全規模)「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、自動車・同附属品などで増益見込みとなっているものの、非鉄金属などで減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸業、郵便業などで増益見込みとなっているものの、学術研究、専門・技術サービス業などで減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超幅が縮小している。
先行きについては、全規模・全産業ベースで7~9月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

➢ 昨年発売した共働きや在宅勤務に適した賃貸住宅が好評となっており、好調な受注状況となっている。(住宅建設、大企業)
➢ 展示場来場者数が本格的に回復しない中、部材価格の高止まりや物価上昇などの要因により、様子見の顧客が増えており、販売棟数は減少している。(住宅建設、大企業)

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額をみると、都県、市区町村は前年を上回っているものの、国、独立行政法人等で前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

■ **輸出** 「前年を上回っている」

- 通関実績(円ベース、東京税関と横浜税関の合計額)でみると、輸出は前年を上回っている。
なお、輸入も前年を上回っている。

■ **倒産** 「件数、負債総額ともに前年を上回っている」

3. 各都県の総括判断

	前回 (4年4月判断)	今回 (4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
埼玉県	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
千葉県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
東京都	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
神奈川県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きあるなか、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
茨城県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動及び雇用情勢は持ち直している。
栃木県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬県	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
新潟県	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨県	新型コロナウイルス感染症等の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費、生産活動及び雇用情勢は、いずれも緩やかに持ち直している。
長野県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある。

北陸財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってからの下足の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあることなどから、全体では持ち直しつつある。生産活動は、生産用機械が拡大に向けた動きに一服感がみられるものの、電子部品・デバイス及び化学が持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↗

設備投資	3年度は減少見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	↗
企業収益	3年度は減益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	↗
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品や高額品に動きがみられることから、前年を上回っている。スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、前年を上回っている。以上のような状況を踏まえると、持ち直しつつある。コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることなどから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられることに加え、新規出店効果がみられることなどから、順調となっている。ホームセンター販売は、DIY用品の動きが鈍いものの、園芸用品等に動きがみられることから、前年並みとなっている。家電大型専門店販売は、エアコンに動きがみられるものの、パソコン等の動きが鈍いことから、横ばいの状況にある。新車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回っており、弱含んでいる。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱実績は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は北陸地域内の旅行に動きがみられる。以上のことから、個人消費については、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 連休中は催事が好調で、観光客や帰省客で賑わった。連休後も、週末を中心に客足が戻ってきており、こうした動きが続いている。(百貨店)
- 前年比では巣ごもり需要はやや落ち着いているものの、依然として飲食料品の売れ行きが良い。(スーパー、中堅企業)
- 人流の回復に伴い客数が増加しており、おにぎりや弁当など米飯類の売れ行きが良い。(コンビニエンスストア、大企業)
- 前年比では巣ごもり需要にやや落ち着きがみられるものの、引き続き飲食料品の売れ行きが良いほか、気温の高い日が続き、制汗剤や日焼け止めの動きが良い。(ドラッグストア、中堅企業)
- 晴れの日が多く、園芸用品やレジャー用品の売れ行きが良い。(ホームセンター、大企業)
- 気温の上昇により、エアコンの売れ行きが良い。一方で、テレワーク需要の落ち着きから、パソコンの動きが鈍い。(家電大型専門店、中小企業)
- メーカー各社の自動車減産により、納車までの期間がさらに長期化しているほか、納期が見通せない車種も増えている。また、受注は順調に推移しているものの、納期の不透明さから、購入を見送る動きもある。(自動車販売店、中堅企業)
- 引き続き県民割が実施されていることから、近隣県からの宿泊客が多い。(温泉地)
- 週末を中心に観光客の姿がみられるほか、地元客も少しずつ戻ってきている。(飲食サービス、大企業)

■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に持ち直しつつある。化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直しつつある。生産用機械は、半導体製造装置が拡大しているほか、金属加工機械が増加しているものの、繊維機械が減少していることなどから、拡大に向けた動きに一服感がみられる。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用を中心に緩やかに持ち直しつつある。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに足踏みの状況にある。以上のことから、生産活動については、緩やかに回復しつつある。

- スマートフォン向けについては、中国メーカー向けは減少しているものの、北米メーカー向けは順調となっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 引き続き、全国的な医療用医薬品の不足を背景に、後発医薬品を中心に受注が増えている。(化学、大企業)
- 世界的な半導体不足を背景に、半導体製造装置は韓国、台湾などのアジア向けを中心にフル生産が続いている。(生産用機械、大企業)
- 住宅用サッシやエクステリアが堅調となっているほか、ビル用は徐々に動きがみられ始めている。(金属製品、大企業)
- カーシート向けについては、自動車減産の影響を受けて、一部車種向けでやや減少している。(繊維、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数、新規求職者数ともに前年を上回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。以上のことなどから、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 経済活動の再開により、小売以外の業種も含めて人材の取り合いになっている。(小売、中堅企業)
- 様々な採用活動を行っているが人材が集まらないため、DX投資による生産性向上を図っている。(電子部品、中小企業)
- 感染状況の落ち着きから、宿泊・飲食、サービス業等、コロナ禍で少なくなっていた業種からの求人が戻ってきている。また、求職について在職求職者の増加に加え、感染症によって控えられていた求職活動が徐々に戻ってきている。(労働局)

- **設備投資** 「4年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 製造業では、情報通信機械器具などが増加となるものの、生産用機械器具、金属製品などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。
 - 非製造業では、運輸・郵便などが減少となるものの、金融・保険、建設などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- システム更新や店舗の修繕などにより、増加見込み。(金融・保険、大企業)
 - 新工場の建設などにより、増加見込み。(建設、中堅企業)
 - 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(生産用機械器具、大企業)
- **企業収益** 「4年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 製造業では、情報通信機械器具などが減益となるものの、自動車・同附属品、繊維工業などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、情報通信などが減益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、運輸・郵便などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では4年7-9月期は「下降」超となる見通しとなっているものの、4年10-12月期は「上昇」超となる見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「持ち直しつつある」
 - 新設住宅着工戸数でみると、持ち直しつつある。
 - **公共事業** 「前年を下回っている」
 - 前払金保証請負金額でみると、前年を下回っている。
 - **金融機関の貸出金** 「前年を上回っている」
 - 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。
 - **企業倒産** 「前年を下回っている」
 - 件数、負債総額ともに前年を下回っている。
 - **消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)** 「前年を上回っている」
 - 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けたテンポが緩やかになっている。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福井県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は持ち直している。また、雇用情勢は、持ち直している。

東海財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、不安定ながらも緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している	一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる	供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる	→
雇用情勢	感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↗
設備投資	3年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	緩やかな持ち直しの動きがみられる	おおむね横ばいとなっている	↘
公共事業	前年並みとなっている	前年並みとなっている	→
輸出	緩やかに増加している	緩やかに増加している	→

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、横ばいとなっている。コンビニエンスストア販売は、入店客数が回復しつつあることから、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、調剤部門の持ち直しや新規出店効果もあり、増加している。百貨店販売は、回復しつつある。家電大型専門店販売は、弱い動きとなっている。ホームセンター販売は、弱い動きとなっている。乗用車販売は、供給面の影響により、弱含んでいる。旅行取扱高は、国内向けを中心に、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 外食需要の増加により内食需要が落ち着いてきたほか、商品値上げの影響により、買上点数が減少しており、消費者の節約志向が強まっている。しかしながら、2019年比ではいまだ売上高はプラスとなっており、水準自体はそこまで落ち込んではいない。(スーパー、大企業)
- ゴールデンウィーク以降、婦人服を中心に60代以上の高齢層の売上が回復しているほか、値上げに伴う駆け込み需要で高級衣料や時計・宝飾品等の高額品が売上を牽引している。(百貨店、大企業)
- 受注は堅調に推移しているものの、納車の長期化がさらに深刻になっており、当面、納車期間の長期化による販売台数の低迷は続くものと思われる。(乗用車、中堅企業)
- まん延防止等重点措置の解除以降、来店客数は徐々に回復しており、感染拡大前の8割の水準まで戻ってきている。行き先は国内が中心であり、海外はほとんどない状況である。(旅行、中小企業)
- まん延防止等重点措置が解除されて以降、来店客数は増えており、特にゴールデンウィークの動きは良かった。最近、感染者数が増えており、今後の動きに注意していきたい。(飲食サービス、大企業)

■ 生産活動 「供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる」

自動車関連は、供給面での制約等の影響がみられるなか、増加の動きに一服感がみられる。航空機体部品は、海外航空機メーカーが大幅に減産したことから、悪化している。金属工作機械は、国内外の受注が堅調に推移していることから、生産は回復している。半導体集積回路は、緩やかに増加している。液晶は、弱い動きとなっている。プラグは、横ばいとなっている。開閉機器、電動機ともに、緩やかに持ち直している。普通鋼、特殊鋼ともに、弱含んでいる。

- 半導体不足や中国のロックダウンの影響により、完成車メーカーが生産計画の見直しを行い、受注が減少したため、計画通りの生産ができなかった。今後も先行きを見通せない状況が続くと見込んでいる。(輸送機械、大企業)
- 半導体製造装置向けを中心に国内外の受注が増加している。旺盛な受注に対応するため派遣社員等の確保に努めているが、希望する人数を採用できないため、正社員の残業時間を増加させることで工場稼働率を上昇させている。(生産用機械、大企業)
- 中国のロックダウンの影響により生産工程に制約が生じていたものの、足下では状況が改善しており、通常稼働に戻っている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 産業機械向けを中心に受注が増加しているものの、部材調達が不安定な状態が続いており、工場の稼働に影響を及ぼしている。代替品等部材調達ルート確保に努めており、稼働率の上昇を見込んでいる。(電気機械、大企業)
- 半導体不足に加えて、中国のロックダウンの影響により、完成車メーカーからの受注が減少した状況が続いていることから、稼働率を落として操業している。(鉄鋼、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

新規求人数が緩やかに増加していることから、有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は低水準である。

- 今後の生産回復を見込んで人員の募集を行い始めたが、技能系の人材は取り合いのような状況となっている。(輸送用機械、大企業)
- 感染症拡大以降は、新規採用はせず、既存の人員でやりくりしてきたが、足下で需要が回復しているため、募集を再開している。(サービス、大企業)
- 製造業向けの労働者派遣業やビルのメンテナンス・清掃を行う警備業からの求人が多くみられた。(労働局)
- 卸・小売業や宿泊・飲食サービス業などを中心に、感染状況が落ちついている中で、行動制限のない5月の連休を前に人手確保の動きがみられた。(労働局)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、木材・木製品が減少となるものの、輸送用機械や情報通信機器などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 非製造業では、建設や不動産が減少となるものの、運輸などが増加となることから、増加見込みとなっている。

➤ 生産の維持や合理化のための投資に加え、新規事業やカーボンニュートラルの実現に向けた戦略的投資を行っていく。(輸送用機械、大企業)

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、窯業・土石などが減益となるものの、輸送用機械などが増益となることから、増益見込みとなっている。
- 非製造業では、サービスなどが減益となるものの、運輸が黒字となることや卸・小売が増益となることから、増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(4年7-9月期)は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「おおむね横ばいとなっている」

- 住宅建設は、分譲住宅が増加しているものの、貸家、持家が前年を下回っていることなどから、おおむね横ばいとなっている。

■ **公共事業** 「前年並みとなっている」





- 前払金保証請負金額でみると、市区町村は増加しているものの、県、国が減少していることから、前年並みとなっている。

■ **輸出** 「緩やかに増加している」

- 輸出(円ベース)は、緩やかに増加している。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「件数は前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	新型コロナウイルス感染症等の影響がみられるなか、不安定ながらも緩やかに回復している	緩やかに回復している		個人消費は、一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
静岡県	新型コロナウイルス感染症や供給面での制約等の影響により一部に弱さがみられるものの、持ち直している	持ち直している		個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、一部で供給面での制約等の影響がみられるものの、全体では持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
岐阜県	新型コロナウイルス感染症や供給面での制約等の影響がみられるなか、持ち直しのテンポが緩やかになっている	供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている		個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
三重県	新型コロナウイルス感染症や、供給面での制約等の影響により、持ち直しのテンポが緩やかになっている	供給面での制約等の影響が残るものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、自動車関連で持ち直しに向けた動きがみられることから、全体では持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けた動きがみられる。

近畿財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直している	持ち直している	→

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、外出機会の増加に伴い、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響があり、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直しの動きに一服感がみられる	↘
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しつつある	→
設備投資	3年度は前年度を上回る見込みとなっている	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	3年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	→
住宅建設	前年を下回っている	前年並みとなっている	↗
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化等が懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、感染症による影響や金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では外出機会の増加に伴い、国内客の回復など持ち直しているほか、スーパーでは内食・中食需要が定着しつつあり、売上が堅調に推移している。コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、住宅街などの店舗では売上が堅調に推移しているほか、都市部などの店舗では人出の増加に伴い、持ち直している。ホームセンター販売は、外出機会の増加に伴い、コロナ禍での特需に落ち着きが見られることから、横ばいの状況にある。家電販売は、買替え需要に落ち着きが見られるものの、エアコンなどが好調であり、持ち直しの動きが見られる。乗用車の新車登録届出台数は、供給面の制約により、前年を下回っている。旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況であるものの、国内旅行は持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 客足は順調に回復しており、バッグやアクセサリなどのラグジュアリー商品の売れ行きが好調であり、インバウンドを除く国内売上はコロナ禍前を上回る水準となっている。(百貨店・大企業)
- 外出自粛の影響が緩和され、外食の機会が増加したことで、売上は前年比では減少したが、総菜や冷凍食品などの需要は引き続き好調であり、業況は堅調に推移している。(スーパー・大企業)
- 他地域からの流入も見られるなど、繁華街や観光地の店舗は人出の増加が顕著であり、持ち直しの動きが強くみられるほか、住宅街や郊外の店舗は巣ごもり需要が落ち着きつつあるものの、引き続き堅調に推移している。(コンビニエンスストア・大企業)
- 園芸用品は巣ごもり需要の余韻で堅調に推移するも、GWは行動制限がなく旅行などの外出機会が増加したためか、来店客数が減少し、売上も前年と比べ減少している。(ホームセンター・中堅企業)
- 電気料金値上げによる節電意識の高まりにより、省エネ性能の高い高価格帯のエアコン、冷蔵庫などの売れ行きが好調となっている。(家電量販店・大企業)
- 受注状況や消費者の購買意欲は落ち込んでいないものの、部品供給停止等の影響により完成車が出荷されず、厳しい状況となっている。(自動車販売店・中小企業)
- 全体の業況としては厳しい状況が継続しているが、感染の落ち着きに伴い、旅行需要は確実に戻ってきており、夏休みの予約も好調であるなど国内旅行を中心に持ち直している。(旅行代理店・中堅企業)
- 宴会など大人数での利用や21時以降の利用の需要はまだ戻らないものの、客足は徐々に回復してきている。(飲食サービス・大企業)

■ 生産活動 「持ち直しの動きに一服感がみられる」

汎用・業務用機械、生産用機械などが堅調であるものの、輸送機械などが供給面での制約から低調となっており、生産活動は持ち直しの動きに一服感がみられる。

- 国内の物流施設向けを中心にマテリアルハンドリングの売上が引き続き好調。(汎用機械・大企業)
- 世界的な設備投資需要の拡大を受けて、半導体製造装置や電気自動車関連を中心に部品加工の用途で機械の販売が増加した。(生産用機械・大企業)
- 上海ロックダウンの影響があり、4月は一部工場が停止したものの影響は少なかったが、5月に大きな影響がでた。6月はロックダウンの解除に伴い回復傾向となっている。(電気機械・大企業)
- 上海のロックダウンは解除されたものの、現地生産が滞っており、依然として部品調達が困難となっていることから、今期も取引先の減産が相次いでおり、前期以上に厳しい状況となっている。(輸送機械・大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は緩やかに上昇しており、完全失業率も前年を下回って推移しているなど、雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。

- 飲食サービス関連で人材確保の動きが目立ってきており、人の取り合いになっている。(コンビニエンスストア・大企業)
- アルバイトについては、まん延防止等重点措置明けということもあり、採用を増やしているが、コロナで離れてしまった労働者がなかなか戻ってこない。(宿泊・中堅企業)
- 社内システムの構築などデジタル化に対応するための人材が不足している。また、マーケティングや経営人材など専門知識や技能を要する人材については、キャリア採用に力を入れている。(電気機械・大企業)
- 現状、人員は不足していない。自動車の減産の影響により生産量が落ちているため人手不足に陥らなかったという側面もある。(繊維・中小企業)

- **設備投資「4年度は前年度を上回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和4年4～6月期
 - 製造業では、生産用機械、鉄鋼など、ほぼ全ての業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、不動産などが前年度を下回っているものの、建設、卸売などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

➢ 研究開発拠点の拡充、生産・物流体制の強化、基幹システム関係の投資などを計画。（生産用機械・大企業）
 ➢ 物流施設への投資額が増加。（建設・大企業）

- **企業収益「4年度は増益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和4年4～6月期
 - 製造業では、化学などが増益となるものの、生産用機械、鉄鋼などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設などが減益となるものの、運輸・郵便、卸売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年並みとなっている」**
 - 新設住宅着工戸数でみると、持家が減少しているものの、分譲マンションなどが増加していることから、前年並みとなっている。

➢ マンションは価格が高騰するなかでも引き続き好調。また、子育て世帯や若者夫婦世帯の住宅取得に伴う負担軽減を図る「こどもみらい住宅支援事業」も住宅購入のきっかけとなっているようである。（建設・大企業）

- **輸出「前年を上回っている」**
 - 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品や非鉄金属などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和4年4～6月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、4年7～9月期は、全産業では「上昇」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等や市町村などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、交通・通信などが下落しているものの、光熱・水道などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を上回っている。


3. 各府県の総括判断

	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
京都府	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
兵庫県	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
奈良県	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。
滋賀県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は一部に供給面での制約の影響がみられるものの、回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。

中国財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」









項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、横ばいの状況にある	緩やかに持ち直している	
生産活動	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している	供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
設備投資	3年度は前年度を下回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じる	「下降」超幅は縮小	
住宅建設	前年を上回る	前年を上回る	
輸出	前年を上回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

業態別にみると、家電販売は、エアコンなどが好調であるものの、テレビなどの需要に落ち着きがみられ、前年を下回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、需要は高いものの半導体不足の影響により、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を下回っている。外出機会の増加に伴い、百貨店販売、スーパー販売は、衣料品などが好調であることから前年を上回っている。ドラッグストア販売では化粧品などが、コンビニエンスストア販売では食料品が好調となっており前年を上回っている。これらのことから、個人消費は、全体では緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 省エネタイプの商品への買い替え需要でエアコンが好調であった一方、巣ごもり需要の落ち着きによりテレビが不調となっているほか、テレワークやGIGAスクールなどで普及が進んだパソコンは需要が落ち着いてきている。（家電量販店）
- 行動制限がなかったGWを中心に来店客数が増加し、外出機会の増加もあって、これまで不調であった衣料品や靴、靴などの身の回り品などの売上が回復している。（百貨店）
- 外出機会の増加により衣料品の売れ行きが好調。気温の上昇により夏物衣料も好調となった。（スーパー）
- 行楽需要の高まりから日焼け止めや乗り物酔いの薬などが好調となっている。（ドラッグストア）
- ドライブ需要関連商品であるおにぎりやファストフードの販売が好調。特に週末にかけて来客数が増加した。（コンビニエンスストア）
- 半導体不足や東南アジアからの部品調達の遅れなどの供給面の制約を受けて完成車メーカーが減産しており、納車の遅れが続いている。（自動車販売）

■ 生産活動 「供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている」

化学は、インフラ向けなどで需要が堅調であることから、増加している。電気機械は、スマートフォン向けなどで需要が堅調であることから、増加している。一方、輸送機械、汎用・生産用・業務用機械は、半導体などの部品供給不足の影響がみられることから、減少している。鉄鋼は、自動車向けなどで需要に弱い動きがみられることから、減少している。このように、生産活動は、全体では、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 経済成長を続けるインドなどで新型コロナウイルス感染症の感染が落ち着き、海外インフラ向けで需要が回復していることから、フル稼働となっている。（化学）
- スマートフォン向けなどで5G関連の電子部品需要が堅調なことから、高操業の状態が続いている。（電気機械）
- 上海市のロックダウンの影響による部品供給不足の影響は、緩和されつつあるものの依然として続いているほか、半導体不足も続いており、部品の調達状況に応じた生産となっている。（自動車）
- 経済活動の再開に伴い、国内外で需要が回復しているものの、半導体等の部品調達に支障が出ている影響を受け、生産量が減少している。（生産用機械）
- 物流関連施設の建設など、建材向けの需要は高まっているものの、半導体などの部品調達難により、完成車メーカーが生産量を減少させている影響を受け、自動車向けなどの需要が弱まっている。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

雇用情勢は、製造業、非製造業ともに新規求人数が増加していることや、有効求人倍率が上昇傾向にあることなどから、緩やかに持ち直している。

- 自動車メーカーの生産が回復した際に備え、正社員の募集を継続して行っている。（自動車）
- 行動制限の解除により、飲食店に応募者が流れたため、採用が困難な状況がみられてきている。（ドラッグストア）
- 宿泊客、観光客の増加を受けて人手不足に転じており、コロナ禍の2年間に人員補充を行えなかったことによる影響が顕著に現れている。（宿泊）

- **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
- 製造業では、「石油・石炭」などで減少するものの、「化学」、「情報通信機械」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、「農林水産」などで減少するものの、「小売」、「金融・保険」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 前年からの持ち越し案件や脱炭素化に向けた設備投資を実施。(化学)
- 物流拠点の整備のための設備投資を実施。(小売)

- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
- 製造業では、「生産用機械」、「鉄鋼」などで増益となるものの、「化学」、「木材・木製品」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「小売」、「建設」などで減益となるものの、「医療・教育」、「その他のサービス」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

- **企業の景況感** 「『下降』超幅は縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

- **住宅建設** 「前年を上回る」
- 新設住宅着工戸数でみると、持家が減少しているものの、貸家、給与住宅などが増加していることから、前年を上回っている。

- **輸出** 「前年を上回る」
- 輸出(円ベース)は、自動車などが減少しているものの、鉄鋼、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東欧・ロシアなどで減少しているものの、アジア、中南米で増加している。

なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、石炭などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、大洋州などで増加している。


3. 各県の総括判断

	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
鳥取県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は持ち直しつつある。生産活動は供給面での制約の影響がみられるなか、横ばいの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
島根県	感染症の影響が残るなか、緩やかに持ち直している	感染症や供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。		個人消費は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は一部に弱い動きがみられ、足踏みの状況にある。雇用情勢は感染症の影響が残るなか、持ち直している。
岡山県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
広島県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直している	持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

四国財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直しつつある」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある	




（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。






（判断の要点）

個人消費は、スーパーに底堅さがみられる中で、コンビニエンスストア、百貨店、観光等が持ち直しつつあることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、食料品や窯業・土石が持ち直しつつあるものの、電気機械が足踏みの状況にあることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある	
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある	

設備投資	3年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化等が懸念される中で、原材料価格の上昇や供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しつつある」

スーパーは、衣料品等に持ち直しの動きがみられるほか、飲食料品が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、ソフトドリンク等に持ち直しの動きがみられることから、全体としては持ち直しつつある。ドラッグストアは、飲食料品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、エアコンや冷蔵庫に動きがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。ホームセンターは、園芸用品等に動きがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。百貨店は、衣料品等に持ち直しの動きがみられることから、全体としては持ち直しつつある。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を下回っている。観光は、行動制限の緩和などから、持ち直しつつある。旅行は、国内旅行は持ち直しつつあり、海外旅行は不調となっている。

(主なヒアリング結果)

- 感染症の影響が和らぐなか、外出機会の増加などによって衣料品の動きがよくなっている。(スーパー)
- 食料品の値上がりの影響はあるものの、引き続き総菜等の動きはよい。(スーパー)
- 外出機会の増加などにより、ソフトドリンクやおにぎり等の動きがよくなっているほか、冷たい麺類の動きもよかった。(コンビニエンスストア)
- 取り扱いを強化している飲食料品の動きはよい。また、外出機会の増加や行楽需要の高まりなどから、日焼け止め等に動きがみられる。(ドラッグストア)
- 電気代の上昇により省エネ性能の高いエアコンや冷蔵庫の需要が高まっている。(家電大型専門店)
- 感染症の流行をきっかけに始めた家庭菜園やガーデニングが定着し、引き続き園芸用品の需要が高い。また、キャンプ用品にも動きがみられる。(ホームセンター)
- 来店客数が回復するなか、外出機会の増加などにより衣料品等の動きがよい。(百貨店)
- 半導体不足や上海のロックダウンなどによる部品調達難の影響で減産を強いられており、登録台数は前年を下回る状況が続いている。(乗用車)
- 行動制限の緩和やイベントの効果もあって、観光客数は増加している。ゴールデンウィーク以降は、県外客も多くみられている。(観光)
- 県民割の効果などにより、旅行者数は増加傾向にある。また、遠方への旅行もみられるようになった。(旅行)

■ 生産活動 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

食料品は、外食向けで動きがみられることから、持ち直しつつある。窯業・土石は、堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。電気機械は、供給面での制約の影響がみられることから、足踏みの状況にある。こうしたことから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 飲食店や宿泊施設向けの需要が回復している。(食料品)
- 世界的な半導体不足を背景に、半導体製造装置向けの需要は高く、高操業となっている。(窯業・土石)
- 中国における経済活動の抑制などの影響により、部品の入荷遅れが発生し、生産工程に影響が出ている。(電気機械)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいで推移している。新規求人数は前年を上回っている。

- 冷凍食品や総菜などの需要が好調なことから、食料品製造業で求人数が増加している。(労働局)
- スーパーマーケットや食品関係の小売業で求人数が増加している。(労働局)
- 行動制限の緩和によって、旅行客数が増加しており、宿泊業で求人数が増加している。(労働局)
- 来店客数が増加しており、従業員数は不足気味となっている。特に休日は不足感が強い。(飲食店)

- **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。
- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期
 - 非製造業で増益見込みとなっているものの、製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。
- **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数で見ると、貸家は前年を上回っているものの、持家及び分譲で前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。
- **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額で見ると、国、独立行政法人等、県及び市町村において前年度を下回っており、全体としても前年度を下回っている。


3. 各県の総括判断

	前回 (4年4月判断)	今回 (4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。
徳島県	新型コロナウイルス感染症の影響などにより、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直しつつある。
高知県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

九州財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」







項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費に持ち直しの動きがみられることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械が高水準で推移していることから、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
生産活動	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	3年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、食料品が堅調であることに加え、外出機会の増加に伴い衣料品に動きがみられることから、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、行楽需要などを背景に客数が増加していることから、持ち直している。ドラッグストア販売は、食料品や衛生用品を中心に堅調である。ホームセンター販売は、DIY関連商品に需要の落ち着きがみられることから、横ばいとなっている。家電大型専門店販売は、節電効果の高い家電への買い替え需要もあり、堅調である。乗用車の新車販売は、供給面での制約により、弱い動きとなっている。宿泊は、助成事業の効果もあり、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 大規模な催事の効果もあり来店客数が増加している。衣料品は旅行用のほか、結婚式などで使うフォーマルの売上が伸びている。足下の感染者数の増加による影響もあまりみられない。(百貨店・スーパー)
- 内食需要は続いており、食料品は堅調。今年は梅雨明けが早かったこともあり、来店客数は前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 行動制限がないため、来店客数が前年と比べ2割程度増えている。コロナ禍の影響を受けていた映画館にも客足が戻ってきている。(大型商業施設)
- 行楽需要の回復により、前年是不調だった空港や駅周辺の店舗において来店客数が増加しており、おにぎりやサンドイッチなどが好調。(コンビニエンスストア)
- 電気料金の値上がり、省エネ家電へ買い替える動機となっている。(家電大型専門店)
- 受注は好調であるものの、中国のロックダウンの影響により部品供給が停滞し、新車の納期がさらに長期化している。(自動車販売店)
- 助成事業の効果により4月以降宿泊者数は増加しており、売上はコロナ禍前の7割程度まで回復している。(宿泊施設)
- 酒類を提供する飲食店は、週末の客足が戻っているものの、平日は良い日と悪い日の差が大きく、予約が入っていない日は休業する店もある。(飲食業界団体)

■ 生産活動 「持ち直している」

食料品等は、焼酎などで減少しているものの、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、車載向けや民生向け部品を中心に高水準で推移している。化学・石油製品は、自動車向け製品が回復傾向にあり、堅調である。汎用・生産用・業務用機械は、部材不足の影響がみられるものの、半導体製造装置を中心に高水準で推移している。輸送機械は、部材不足により自動車及び同部品が減少したものの、持ち直しの動きがみられる。

- 芋焼酎の原料であるさつま芋が昨年夏の長雨や基腐病の影響により不作となったため、原料不足が生じ、生産調整を余儀なくされた。(食料品等)
- 車載向けや家電向けの旺盛な需要が続いていることから、全ての工程でフル稼働が続いている。(電子部品・デバイス)
- 車や建築用の塗料について、自動車減産の影響で生産調整を行ったものの、中国のロックダウンの影響により当社において代替生産を行うこととなったため、稼働率は上昇している。(化学・石油製品)
- 5Gの普及やデータセンター向けの需要の高まりにより半導体メーカーが設備投資を拡大しているため、半導体製造装置の受注は好調で高い生産水準が続いている。装置に組み込む部品の調達には遅れているものの、調達可能な部品への切り替えや設計変更、工程の組み替えを行いながら、何とか凌いでいる。(汎用・生産用・業務用機械)
- 中国のロックダウンの影響による部品不足のため減産を余儀なくされたものの、7月以降はロックダウンの影響も緩和される見込みであり、挽回生産を行う予定。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、緩やかに上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、その他の事業サービス業を中心に前年を上回っている。

- 早朝や夜間など人手が不足する時間帯について、少し高めに時給を設定して募集しているものの、多くの企業が求人を出していることもあり、応募がない状況が続いている。(医療・福祉)
- ハローワークや求人サイトで募集をかけているものの、外食産業は感染症の影響で不安定なイメージがあるため、確保が難しい。(飲食サービス業)

■ 設備投資 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 製造業では「はん用機械器具製造業」などで減少見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では「情報通信業」などで減少見込み、「農林水産業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 電動化の進展が期待される自動車用部品や海外での需要増加が見込まれる民生用部品を増産するための設備投資を計画。(情報通信機械器具製造業)
- 豚舎等の建物の老朽化対策、飼料や水の管理を行うIT設備への投資を予定。(農林水産業)

■ 企業収益 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 製造業では、「化学工業」などで減益見込み、「生産用機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「小売業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 4年4～6月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。先行き(全産業)をみると、4年7～9月期は「上昇」超の見通しとなっている。

■ 住宅建設 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数(4年3月～5月)をみると、持家及び分譲は前年を下回っているものの、貸家は前年を上回っている。

■ 公共事業

- 公共工事請負金額(4年4～6月累計)をみると、前年度を下回っている。

■ 農業

- 野菜の農協共販量をみると、4月は前年を下回り、5月は前年を上回っている。野菜の販売単価をみると、4月は前年を上回り、5月は前年を下回っている。
- 牛のと畜頭数をみると、4月、5月は前年を下回っている。牛の枝肉卸売価格をみると、4月、5月は前年を下回っている。
- 豚のと畜頭数をみると、4月、5月は前年を下回っている。豚の枝肉卸売価格をみると、4月は前年を下回り、5月は前年を上回っている。

■ 倒産

- 企業倒産(4年4～6月期)は、件数、負債金額ともに前年を上回っている。


3. 各県の総括判断

	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、百貨店・スーパー販売やコンビニエンスストア販売が持ち直しているほか、宿泊などサービス消費に持ち直しの動きがみられることから、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるなか、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスが高水準で推移していることから、回復している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
大分県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、感染症の落ち着きに伴う人流の増加により百貨店・スーパー販売や観光関連などにおいて緩やかに持ち直している。生産活動は、輸送機械などに弱さがみられるものの、化学・石油製品などにおいて緩やかに持ち直している。雇用情勢は、感染症の影響を受けていた業種などで新規求人数が増加し、緩やかに持ち直している。
宮崎県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、行動制限の緩和などにより百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に戻りがみられることから緩やかに持ち直している。生産活動は、食品製造業などの一部に弱さがみられるものの、化学工業を中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業を含む幅広い業種において持ち直しつつある。
鹿児島県	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐなかで、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光関連を中心に緩やかに持ち直している。生産活動は、食品工業などの一部に弱さがみられるものの、電子部品・デバイス工業を中心に緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

福岡財務支局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」








項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

(注) 4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	
設備投資	3年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている。	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている。	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店販売は、まん延防止等重点措置の解除後の人流増加に伴い、緊急事態宣言中であった前年を大きく上回っている。スーパー販売は概ね前年並み。コンビニエンスストア販売は、客足が戻ってきたエリアを中心に好調。乗用車販売は、半導体不足等の影響による供給の遅れから、厳しい状況が継続している。ドラッグストア販売は、前年並みで推移している。家電大型専門店販売、ホームセンター販売は、巣ごもり需要等の反動減により前年を下回っているが、感染拡大前の水準を保っている。旅行取扱高は、まん延防止等重点措置の解除により国内旅行を中心に復調している。

(主なヒアリング結果)

- これまで高額商品、食料品が売上を下支えしていたが、外出機会の増加により、これまで不要不急として買い控えていたファッション関連（衣料品）に動きが出てきている。（百貨店、大企業）
- ウクライナ情勢や原油価格高騰の影響により、秋ごろまでは商品の値上げが継続する見込みであり、先行きは不透明。（スーパー、中小企業）
- 主要駅周辺や歓楽街など、客足が戻ってきたエリアを中心に好調。値上げを実施したファーストフードも販売数は変わらず売上を確保できている。（コンビニ、大企業）
- 引き続き半導体不足の影響によりメーカーが減産したため低調な登録台数となっている。納車まで平均半年待ちとなっており、車種によっては納車まで1年程度を要するものもある。（自動車販売、中小企業）
- 県民割の再開などにより、旅行機運も高まり、前年より収支改善。7月以降、コロナウイルス感染者が急増し、夏休みの旅行手配件数が減少しているが、前年度までの落ち込みは見られない。（旅行代理店、中堅企業）
- 4-6月の売上は、コロナ禍前（2019年比）の7割弱。前年比（2021年比）では大幅増。一般客の利用者は低調であるが、修学旅行客はコロナ禍前の水準まで回復。（宿泊、中小企業）
- 4-6月期の入場者数は前年比増（コロナ前との比較では8割程度）で、関東、関西からの修学旅行も見られるなど好調。今後は感染動向次第だが、周年記念イベントや旅行助成の対象拡大、夏休みシーズンによる客足の増加に期待。（娯楽、大企業）
- 売上・客数は4月以降、好調を維持しており、コロナ禍以前と同水準。他方で、小麦の仕入れ値は高止まりしているほか、電気・ガス代は今でも上がり続けており、現在の最大の懸念事項である。（飲食、大企業）

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

輸送機械の自動車は、サプライチェーンの影響により弱い動きとなっている。鉄鋼は、緩やかに持ち直している。電子部品・デバイス、産業機械向けや家電向けを中心に堅調に推移している。造船は、一定の受注残高及び操業を維持している。このように、生産活動は一進一退の状況にある。

- 受注は堅調であるものの、部品供給不足が継続しているため、生産台数は低調。（輸送機械、大企業）
- 全般的に堅調な中、自動車メーカーの減産により自動車用製品の生産量は減少。なお、製品価格の値上げについては継続的に取り組んでおり、収益性の改善に繋がっている。（鉄鋼、大企業）
- 広範囲で旺盛な半導体需要が継続している。また、足下の円安は当社には増益要因であるほか、原材料価格の上昇やコストの増加も価格転嫁できているため業況には影響していない。（情報通信機械、中堅企業）

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は改善傾向であり、需要回復に伴って宿泊・飲食サービス業等の求人数も増加しており、雇用情勢は持ち直しつつある。

- 半導体製品の需要は引き続き強く、人手が不足しているため期間工を含めて人員の確保に努めているが、地理的要因もあり苦戦している。（情報通信機械、中堅企業）
- 施設稼働率の回復に伴い人手が不足している。コロナの影響で離職した穴を補填する形で採用を考えており、経験者の中途採用は常に行っている。ただ、人件費などで条件に合致せず採用に至らないことも多い。（宿泊、中堅企業）
- まん延防止等重点措置が解除となり、今後の需要回復を見越して宿泊・飲食業の求人が回復しているほか、卸売業・小売業において大型商業店舗の開業やお中元販売のための求人が増えるなど、求人全体として改善の動きが続いている。（公的機関）

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「情報通信機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。(非鉄金属、中堅企業)
- 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。(運輸、郵便、大企業)

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「窯業・土石製品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「その他の輸送用機械器具」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を下回っている」**

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家、貸家、分譲住宅及び給与住宅が減少していることから前年を下回っている。




■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (4年4-6月期) の景況判断BSIで見ると、4年4-6月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、4年7-9月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。


3. 各県の総括判断

	前回 (4年4月判断)	今回 (4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
佐賀県	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一部に供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
長崎県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

沖縄総合事務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポに一服感がみられる	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	




(注) 4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足の状況までを含めた期間で判断している。







(判断の要点)

個人消費は、外出機会の増加などから、消費者マインドの回復傾向がみられるものの、横ばいの状況にある。観光は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
観光	感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる	感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	持ち直しつつある	

設備投資	3年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「下降」超に転じている	現状判断は、「上昇」超に転じている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	
生産活動	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売額は、食料品は引き続き堅調に推移しているほか、不要不急の買い物を控える動きの緩和から衣料品なども動きがみられ、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、前年を下回っているものの、引き続き、住宅街周辺は堅調な動きがみられるほか、観光地周辺でも持ち直しに向けた動きがみられる。ドラッグストア販売額は、前年を下回っている。新車販売台数、中古車販売台数ともに、前年を下回っている。家電販売額は、前年を下回っている。このように、個人消費は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 新型コロナ関連の行動制限がなかったことから、コロナ禍前程ではないが、来店客数も増え良かった。5月、6月の大雨がなければもっと伸びていたと思われる。(百貨店・スーパー)
- 食料品は引き続き堅調に推移し、衣料品も戻りつつある。また、外出自粛の緩和から今までは動きがなかった化粧品などが売れている。(百貨店・スーパー)
- 住宅周辺の店舗では天候の影響は受けたものの引き続き堅調。梅雨が明けてから良くなっている。観光立地の店舗では、観光客の増加から比較的好調。オフィス立地等では、出社している人は増えているようだが苦戦。(コンビニエンスストア)
- マスク等の衛生用品が淡々と売れており、ここ最近では色が付いたマスクなど少し価格帯が高い商品が選ばれており医療衛生品は前年を上回る。化粧品は引き続き伸び悩んでいる状況が続いている。(ドラッグストア)
- 新車は半導体不足、上海ロックダウン等の影響で3～4ヶ月納車が遅れており、また、納車遅れに伴う下取り車の減少で、中古車の販売台数が落ちた。(自動車販売店)
- 4月は気温が上がりエアコンが売れた。冷蔵庫、洗濯機なども売れており良い。5月は梅雨の影響で気温が上がらずエアコンの売上げが落ちたため悪い。6月は、気温が上がり季節感も出て、エアコンが動いている。(家電量販店)

■ 観光 「感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

入域観光客数は、国内客は、前年を上回っている。県内の感染状況の高止まりの影響により、修学旅行は一部キャンセルがみられたものの、全体的な傾向としては、行動制限がない中、個人客を中心に旅行需要は持ち直しつつある。外国客は、引き続きゼロとなっている。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように、観光は感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

- 1-3月期はオミクロン株の急拡大・まん防止措置等の影響で落ち込んでいたが、4月以降徐々に旅行需要が戻ってきている。(他運輸)
- まん延防止等重点措置が解除されてから、3月以降、順調に稼働が伸びている。5月のGWの稼働は約9割と好調で、コロナ前に戻っていた。特にカップルや家族連れ、若者のグループの利用が多かった。(宿泊)
- 前期1-3月期に比べると良くなっているが、個人客中心で、団体客は戻ってきていない。5月のGWの入場者数は、国内客だけでみるとコロナ前の約7割と好調であった。4～6月期の修学旅行は、3月時点では例年近くの水準に戻る見込みであったが、県内のコロナの高い感染状況により、一部キャンセルがあった。(娯楽)
- まん延防止等重点措置が適用されていた前期1-3月期と比べると上向きであるが、県内のコロナ感染者数の増加により、修学旅行がキャンセルになり例年の2割程度の実施になるなど、稼働は低い水準である。(宿泊)
- 通常、5月はGW以外は稼働が落ち、底値の時期であるが、今年は4月以降上向きの状況。最近では、未就学の家族連れが多い。7月、8月は、目標値の稼働70%は確実に超えることが見えている。(宿泊)
- オミクロン株が落ち着き始めた3月以降予約が増え始め、3月後半～GWの予約は断らざるを得なかった。6月は当初予約状況は良くなかったが、間際で予約が伸びた。7～9月までの予約も断っている状況。(レンタカー)
- エリア別では、宮古島が最も好調で、4～6月のいずれも2019年を超えている。続いて、八重山、本島リゾート、那覇の順となっている。夏休みも個人客が中心で、予約は好調であるが、県民割の拡大の延期報道後、新規予約が止まっており、キャンセルも少しずつ出ている。ただ、県民割の拡大が延期になったからというよりは、全国的な感染拡大の影響ではないかとみている。(旅行)
- 7月以降の見通しとしては、売上げはコロナ前の約8割を見込む。予約状況については、7月前半は戻っているが、7月後半以降は、間際の予約の動きは見られるものの、県民割全国拡大の開始時期が後ろ倒しになった影響もあり、期待していたほどの伸びは見られない。(他運輸)

■ **雇用情勢** 「持ち直しつつある」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、その他サービス業、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を上回っている。このように、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 有効求人倍率（季節調整値）は0.95倍で、27ヶ月連続で全国最下位である（前月から0.03ポイント上昇）。新規求人倍率（季節調整値）は1.97倍となり、前月から0.25ポイント上昇となっている。新規求人数（季節調整値）は、観光需要の増加を背景に、特に宿泊・飲食サービス業で増加している。また、その他のサービス業については、IT関係（システムエンジニア、プログラマー）の労働者派遣事業で新規求人が増えている。求人傾向としては、GWの短期的な需要ではなく、夏場の観光需要を見据えた長期的な需要がみられる。（公的機関）
- 4～6月の求人数は、若干回復傾向にあるがまだ弱く、水準感としては、コロナ前の7割。4～6月は、コロナ感染者の高止まりにより、求人側も慎重で、直接雇用ではなく仲介業者から借りる派遣での対応傾向があった。特にGWの繁忙期は派遣の求人が多くみられたが、5～6月頃にはまん延防止等重点措置に戻らないだろうと確信した動きがみられるようになった。（求人誌出版）
- 人手不足感は1～3月期と比べ強まっている。求人を出してもなかなか応募がない。県内で人を採用しようとする動きが強まっている印象がある。不足感が強い部署の求人では時給を上げて募集しているがそれでも採用できていない。（百貨店・スーパー）
- 雇用調整助成金は、4月まで利用していたが、需要回復により5月以降は申請なし。（他運輸）
- 雇用調整助成金を活用して、従業員を休業させながら、雇用を維持している。稼働が低い平日は5割休ませている。引き続き利用予定。（宿泊）

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 製造業では、食料品などで減少することから、全体では前年度を29.5%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸などで減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険などで増加することから、全体では前年度を30.9%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は新本店の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 製造業では、食料品、機械器具などで減益となることから、全体では▲65.8%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、建設で減益となるものの、運輸・郵便、不動産・物品賃貸などで黒字転化となることなどから、全体では58.1%の増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「現状判断は、「上昇」超に転じている」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年4～6月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超に転じている。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数は、貸家で前年を下回っているものの、持家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ **公共事業** 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度6月累計）は、前年を上回っている。

■ **生産活動** 「持ち直しつつある」

- 金属製品が低下しているものの、足下では、食料品及び窯業・土石が上昇していることなどから、生産活動は持ち直しつつある。

財務省大臣官房総合政策課

東京都千代田区霞が関3丁目1番1号

Tel. 03-3581-4111 (内線) 2252, 2225

財務省ホームページアドレス <https://www.mof.go.jp/>